

# IX

# もしも南海地震が 起こったら

## 1 最も甚大な被害が予想される南海地震

愛媛県内で想定されている5つの地震のうち、最も甚大な被害が予想されているのが南海地震（想定地震5）です。

四国から駿河湾までの太平洋沿岸を含む南海トラフでは、史料に記述されている地震として、1605年以降、4回の地震があります。

その発生間隔は92.0年から147.2年までの範囲にあり、平均発生（活動）期間は114.0年となっています。最新の発生が1946年12月21日であることから、最新発生からの経過時間は2002年で約55年となり、平均発生期間の約半分が経過したこととなります。

また、1946年の南海地震におけるマグニチュードは、過去の南海地震の平均より小さいと考えられることから、次の南海地震発生までの間隔は、過去の平均発生間隔114年より短いと推定されています。

政府の地震調査委員会によると、次の南海地震の発生の可能性は年々高まっており、今後30年以内の発生確率は、40%程度に達すると推定されています。

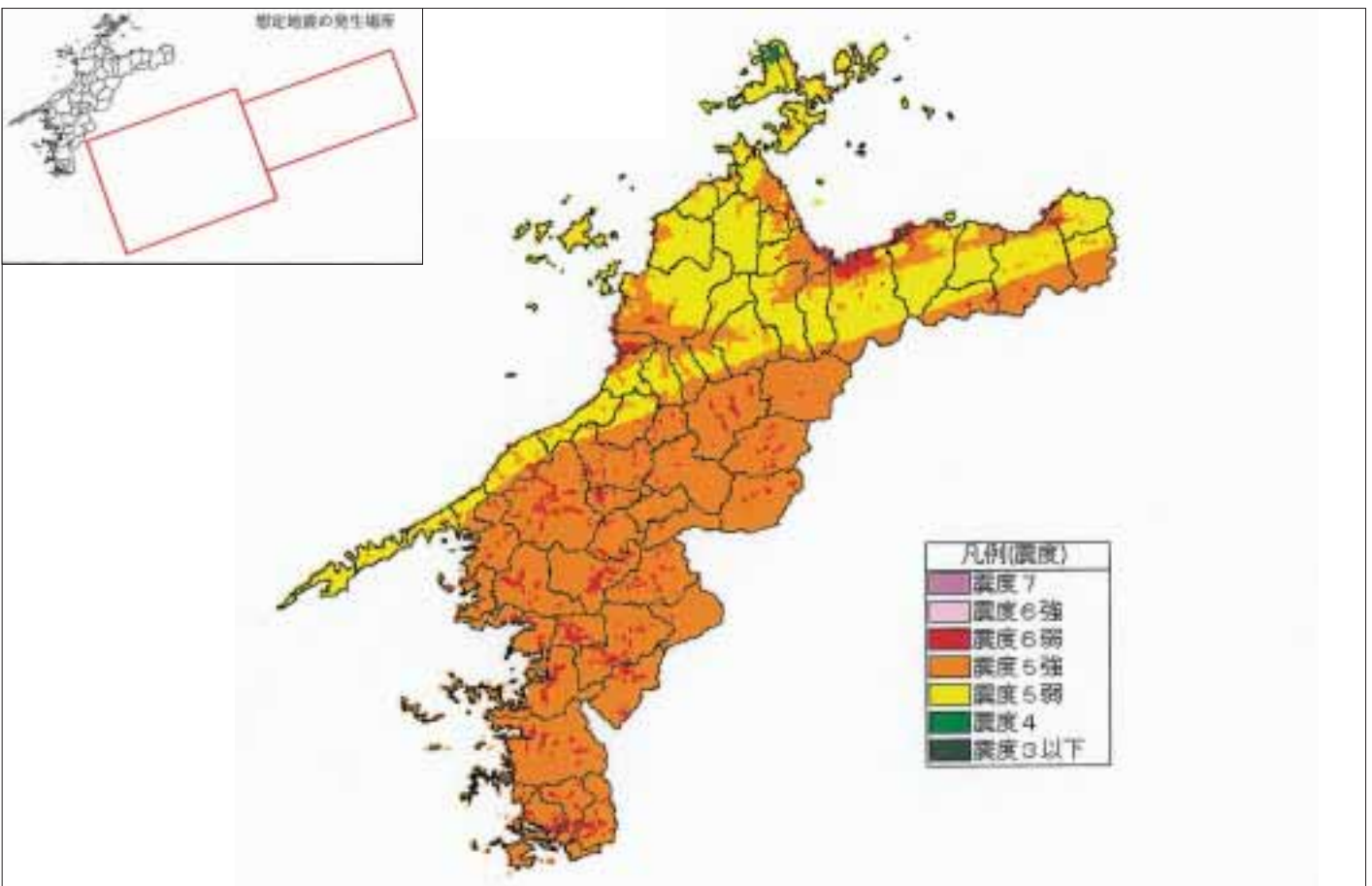
なお、南海地震の規模は、M8.4前後になると考えられており、さらに、津波地震となる可能性も指摘されています。

## 2 南海地震が起こった時の予想震度

南海地震（想定地震5）が起こった時の予想震度は下図のとおりです。

島嶼部を除く全県で震度5弱以上となっています。震度5強の地域が最も多く分布し、松山平野や今治平野などの瀬戸内海に面した平野部や、中予と南予の全域で平野や盆地性の地盤を中心に震度6弱の地域が点在するように分布しています。

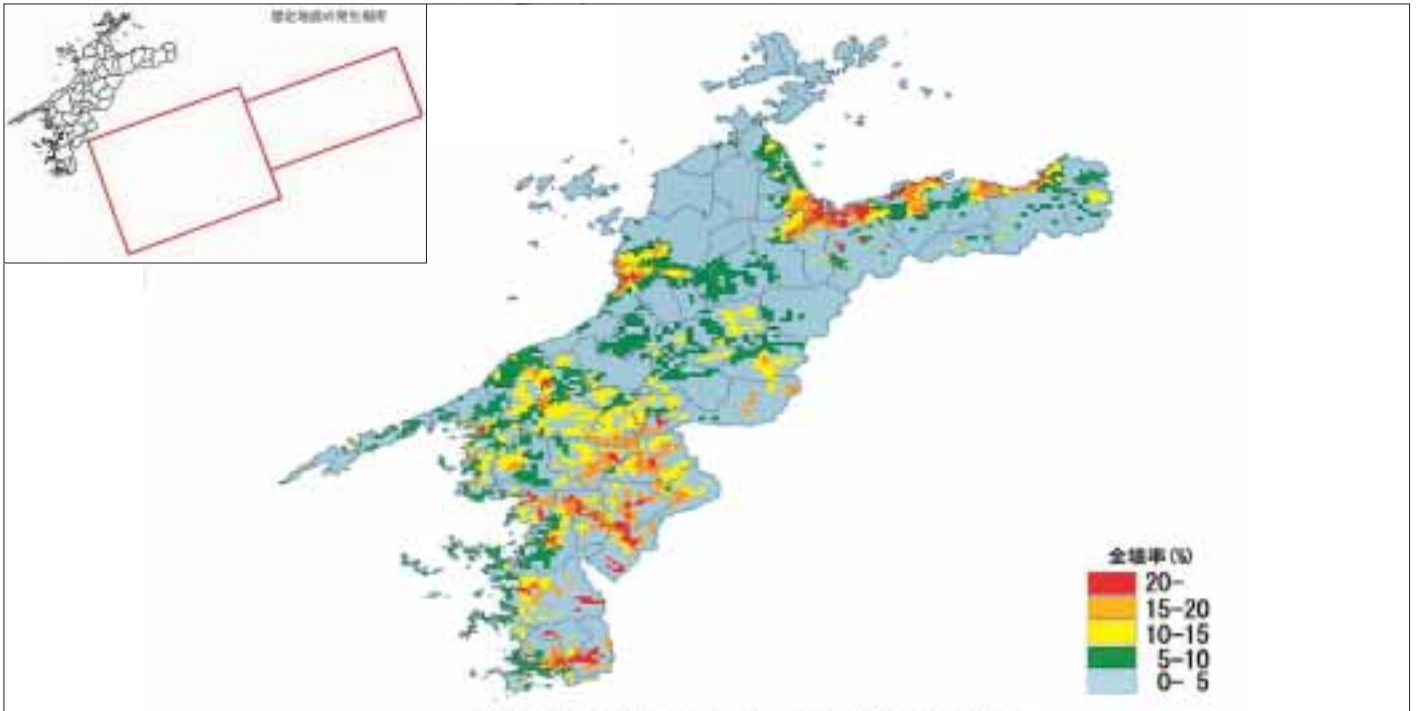
### ■予想震度の分布図



### 3 南海地震が起こった時の建物被害

南海地震（想定地震5）が起こった場合、揺れや液状化による建物の全壊率は下図のとおりです。

#### 揺れ・液状化による全建物の全壊率分布図



#### 建物被害の概要

被害要因	被害程度	道前・道後地震 (想定地震1)	東予地震 (想定地震2)	伊予地震 (想定地震3)	伊予灘地震 (想定地震4)	南海地震 (想定地震5)
揺れ	全壊	58,224棟 (7.97%)	39,227棟 (5.37%)	26,320棟 (3.60%)	20,140棟 (2.76%)	74,291棟 (10.17%)
	半壊	168,411棟 (23.07%)	133,729棟 (18.32%)	125,071棟 (17.13%)	134,275棟 (18.39%)	206,842棟 (28.33%)
液状化	全壊	2,491棟 (0.34%)	2,204棟 (0.30%)	1,839棟 (0.25%)	1,834棟 (0.25%)	2,202棟 (0.30%)
	半壊	4,609棟 (0.63%)	4,047棟 (0.55%)	3,418棟 (0.47%)	3,379棟 (0.46%)	4,116棟 (0.56%)
揺れ・液状化 合計	全壊	60,715棟 (8.32%)	41,431棟 (5.67%)	28,159棟 (3.86%)	21,974棟 (3.01%)	76,493棟 (10.48%)
	半壊	173,020棟 (23.70%)	137,776棟 (18.87%)	128,489棟 (17.60%)	137,654棟 (18.85%)	210,958棟 (28.89%)

#### 阪神・淡路大震災で多くの人命を奪った建物被害

阪神・淡路大震災で亡くなった方の8割以上は、家屋の倒壊が原因でした。また、ケガをした方の半数近くは、家具の転倒によるものでした。

